

名勝名古屋城二之丸庭園の茶室 『余芳』『霜傑』『多春園』『山下御席』…の考古学

名古屋城調査研究センター学芸員 高橋圭也

はじめに

- ・名古屋城二之丸庭園とは
二之丸御殿に付随する庭園
※二之丸御殿：尾張藩の政治的中枢、尾張藩主の居所
- ・二之丸庭園を調査する意義
庭園という“個性”を表現する場を調査することで尾張藩特有の文化を知ることができる。
一方で、庭園という特殊空間を理解することしかできないため、当時の社会を知るのは難しい。
→尾張徳川家の趣味嗜好や支配者層の流行を推測することができる。
↳地域のアイデンティティ形成の一つである可能性 （例）蓮華文敷瓦、施釉瓦

二之丸庭園の建物遺構

- 文化庁監修『発掘調査のてびき 各種遺跡調査編』によると城に関する建物遺構は
1. 防御用の建物(櫓、門、番所、兵舎、柵・塀など)
 2. 居住関係の建物(主殿、会所、常御殿、茶室、蔵など)
 3. その他(馬屋、風呂・便所、寺院・持仏堂、牢獄、馬場など)
- に分けられるとしている。
- この中で二之丸庭園における発掘調査で確認されている遺構は門、柵・塀、茶室、蔵の4種類
複数地点で確認している遺構は柵・塀、茶室の2種類のみ
→二之丸庭園において建物遺構の比較検討を行う場合、茶室を用いることが有効

茶室とは

- ・定義
茶道的な定義：主人が客に茶をふるまい、もてなす空間
本講演における茶室：庭園内に存在する小規模な建物
※東屋などの休憩所や御殿から独立して存在する高層建物も含めて茶室とする。

- ・江戸時代後期に二之丸庭園内に存在した茶室一覧
迎涼閣、逐涼閣、山下御席、霜傑、余芳、多春園、御張出、四ツ堂
この中で山下御席、霜傑、余芳、多春園、4つを発掘調査で確認している。

発掘調査で確認できた茶室

- ・多春園
土間、礎石、多春園への動線(飛び石)を確認
二之丸庭園の西側境界塀に沿って建っていた
- ・山下御席
タタキ製のかずら石、手水に関する遺構を確認
二之丸庭園の北側境界塀に沿って建っていた
- ・霜傑
タタキ製のかずら石、礎石、排水施設を確認
二之丸東側石垣とおおよそ並行している
- ・余芳
手水の海を確認。手水の海付近に礎石と考えられる石材を確認
(・迎涼閣)
今年度の発掘調査で遺構(礎石)を確認
石垣天端を礎石として使用＝石垣と同じ角度

余芳移築再建をふりかえって

復元における諸問題

- ・“礎石”が礎石ではなかったという可能性
土層観察から“礎石”が原位置でない可能性が指摘できる
→「名勝名古屋城二之丸庭園余芳移築再建事業」でも礎石周辺の違和感に言及がある
- ・二之丸に存在した建物の角度の問題
二之丸に近世～近代にかけて存在した建物は石垣または地割の影響を受けている。
→石垣または地割と並行している
- ・余芳から見える景観の問題
現在の正面は視界が開けていない